

SDGs でつながる シェアリングソサエティ 江南



江南市の概要

地域特性

(地理的条件)

・名古屋市から20Km圏内（名鉄犬山線で約20分）に位置する尾張北部のベッドタウン

(人口動態)

- ・国勢調査では平成22年の99,730人をピークに減少傾向にあり、令和2年時点で98,255人
- ・高齢化率は上昇傾向にあり、令和2年時点で28.4%で、超高齢社会となっている

(産業構造)

- ・労働生産性が全国平均・愛知県平均と比較すると低く、産業基盤が弱い
- ・近隣自治体と比較して事業所規模が小さく、市外へ働きに出ている市民が多い

(地域資源)

- ・藤の名所『曼陀羅寺公園』、木曽川や国営木曽三川公園『フラワーパーク江南』など
- ・NPO・ボランティア団体などを始めとした、市民と行政との協働によるまちづくり



2030年の あるべき姿

地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市

～生活・産業・文化の魅力があふれ、選ばれ続けるまち～

【生活都市】：「住宅都市」を核に、住む、働く、学ぶ、楽しむなどの広い意味の生活機能を備えた「生活者」のための都市



《2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴールターゲット》



- ① にぎわいのある駅周辺エリアの創出
- ② 官民連携による産業基盤の整備
- ③ 次世代が輝けるまちの実現
- ④ 誰もが活躍できるまちの実現
- ⑤ ゼロカーボンシティの実現
- ⑥ 市民協働による社会課題解決

自治体SDGsモデル事業の概要①

【自治体SDGsモデル事業】 SDGsでつながるシェアリングソサエティ江南

2030年のあるべき姿

地域とつくる多様な暮らしが選べる生活都市

2030年のあるべき姿の実現に向けた各種事業の一体的な推進

全体計画への効果

社会課題解決のための市民協働の基盤構築

モデル事業による効果

〈経済〉

地域経済の活性化
市内の就労環境の確保



金融機関



市内事業者



市民



行政



市民団体

地域資源・地域課題を多様な主体とシェア

(SDGsでつながる シェアリングソサエティ 江南)

自治体SDGsモデル事業 (2024年~2026年)

全体計画への効果

- ・統合的取組（江南市シェアリングソサエティ創出事業）により、地域資源・地域課題を共有（シェアリング）するプラットフォームを構築
- ・プラットフォームを介して、全体計画に位置付けた各種政策を全体最適化
- ・まちづくり全体において、経済・社会・環境の三側面の相乗効果を高め、地域課題解決のさらなる加速化

取組概要

- ・地域協働の仕組みを基礎としてSDGsを活用
- ・行政・企業・市民等が地域資源や地域課題を共有（シェアリング）
- ・それぞれの強みを最大限活かしたまちづくり（ソサエティ）を推進
- ・経済・社会・環境の三側面の取組の相乗効果を創出

自治体SDGsモデル事業の概要②

【凡例】各側面の取組事項 ⇒ KPI（現在値→2026年目標値）

経済面：地域経済の活性化、市内の就労環境の確保



- ① 曾本地区新工業用地の整備 ⇒ 市内事業所数（3,052事業所→3,100事業所）
- ② 企業誘致の推進、市内企業の再投資促進 ⇒ 安良地区への企業誘致数（6社→7社）
- ③ いこまいCAR（公共交通）の利便性向上 ⇒ いこまいCARの登録者数（8,788人→8,900人）

社会面：ワークライフバランスの実現、官民共創の推進



- ① 子育て世代への支援充実 ⇒ 公立保育園の統合（0件→2件）
- ② 地域共生社会の実現 ⇒ 多世代交流プラザの建設（0件→1件）
- ③ 地域交流センターでの市民活動支援 ⇒ 地域交流センター利用者数（14,114人→15,000人）
- ④ パブリックスペースの活用 ⇒ パブリックスペースの年間利用申請数（40件→96件）

環境面：再生可能エネルギーの普及・活用



- ① 公用車のEV化 ⇒ 公用車全体に占める次世代自動車の割合（8.3%→15.3%）
- ② 市民協働によるごみ減量の推進 ⇒ 市民1人1日当たりの家庭系可燃ごみ排出量（391g→392g）
- ③ 再生可能エネルギー活用設備の導入推進 ⇒ 自立型ソーラースタンド設置数（0基→5基）
- ④ 住宅用ゼロカーボン推進設備の設置促進 ⇒ 住宅用ゼロカーボン推進設備補助件数（187件→185件）

三側面をつなぐ統合的取組①

- ・限られた地域資源を最大限に活用したまちづくりを展開するために、行政・企業・市民団体・市民が各々の強みや課題を共有（シェアリング）し、共に地域課題の解決を図るための仕組みづくりが重要
- ・企業・市民団体・市民の活動をまちづくりにつなげるためのプラットフォームを構築することで、官民連携・地域連携をより推進し、公共サービスを担う新たな存在を拡大していく

事業名

江南市シェアリングソサイエティ創出事業

地域資源シェアリング

SDGsを活用し、行政・企業・市民等が持つ資源のシェアリングやマッチングを推進

新たな公共施設整備

- ・ 保育園の統廃合や多世代交流プラザなどの新たな公共施設整備に民間事業者のノウハウを取り込む。

パブリックスペースの利活用

- ・ パブリックスペースへのキッチンカーの出店やイベントの開催により、官民共創が推進される。

いこまいCARの利便性向上（交通網のシェア）

- ・ 市民の足が確保され、地域公共交通や交通インフラの持続可能性の向上につながる。

フードシェアリング

- ・ 廃棄予定の食品を必要とする方へ提供できる仕組みにより、フードロス及び子育て家庭への支援につながる。

江南市SDGs登録制度

- ・ 地域課題の解決に積極的な事業者を登録することで、あらゆるステークホルダー間の連携を促進する。

地域まちづくり推進協議会

- ・ 地域の多様な主体との協働によりまちづくりを進めることで、市民の自主的・自発的な活動を促進する。

地域課題マッチングシステム

- ・ 行政や市民が登録した社会課題に対して、市民団体や事業者が解決策を提案できる仕組みをつくる。

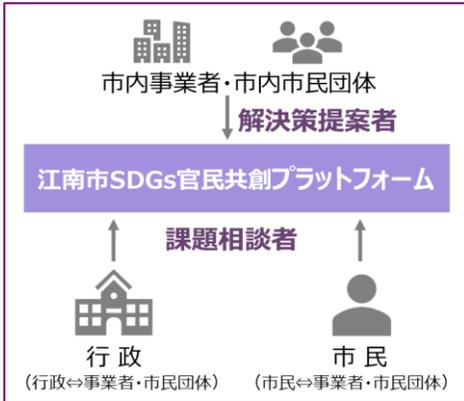
SDGs官民共創プラットフォーム

事業マッチングなどの機会を創出し、官民共創を推進



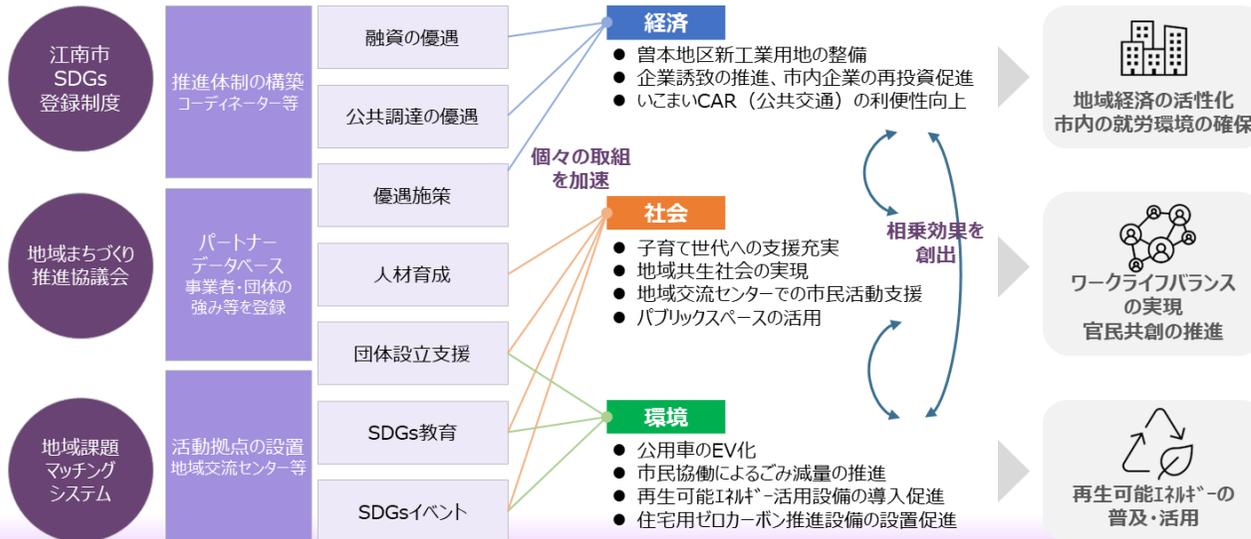
三側面をつなぐ統合的取組②

「江南市SDGs官民共創プラットフォーム」の概要



- ・地域課題の登録を行う「課題相談者」と、ソリューションの提案をする「解決策提案者」をマッチングするためのプラットフォーム
- ・『江南市SDGs登録制度』に登録した事業者を中心に解決策提案者を確保するとともに、マッチング前後の進行管理を支援するコーディネータを配置
- ・『地域まちづくり推進協議会』により、地域課題やパートナーデータベースを共有し、まちづくりを推進
- ・『地域課題マッチングシステム』として、地域交流センター（R5年度に布袋駅東複合公共施設に整備）を中心に、マッチング後の活動場所や交流の場の提供や、団体設立支援などの人的支援を展開
- ・江南市SDGs官民共創プラットフォームによる優遇施策、団体設立支援、SDGs教育等の提示により、**経済面・社会面・環境面における個々の各取組の加速化と相乗効果を創出**

江南市SDGs官民共創プラットフォーム



▲ 布袋駅東複合公共施設（toko+toko=labo）



▲ 地域交流センター

経済・社会・環境の各側面の相乗効果

- ・官民連携事業の展開による民間事業者や各種団体のまちづくりへの参入機会の増加
- ・地域課題マッチングシステムを通じた新規ビジネスの創出や新規企業の参入、市内事業者の事業拡大

- ・市内就業による通勤時間の短縮

経済面の相乗効果①
子育て世代の余暇の確保

社会面の相乗効果①
企業参入の促進

経済

社会

【課題】地域経済の活性化、市内の就労環境の確保

【課題】ワークライフバランスの実現、官民共創の推進

経済成長と雇用、
インフラ、産業化、
イノベーション等

- 曾本地区新工業用地の整備
- 企業誘致の推進、市内企業の再投資促進
- いこまいCAR（公共交通）の利便性向上（交通網のシェア）



**江南市シェアリング
ソサエティ創出事業**
地域資源シェアリング
SDGs官民共創プラットフォーム

- 子育て世代への支援充実
- 地域共生社会の実現
- 地域交流センターでの市民活動支援
- パブリックスペースの活用

働き方改革、地域福祉、
パートナーシップ等



環境面の相乗効果①
環境問題に取り組む
企業の増加

エネルギー、ゼロカーボン、
気候変動等



環境面の相乗効果②
地域協働による
循環型まちづくりの推進

社会面の相乗効果②
環境活動団体の増加

【課題】再生可能エネルギーの普及・活用

経済面の相乗効果②
温室効果ガスの削減

- 公用車のEV化
- 市民協働によるごみ減量の推進
- 再生可能エネルギー活用設備の導入推進
- 住宅用ゼロカーボン推進設備の設置促進

環境

- ・「江南市ゼロカーボンシティ宣言」に沿った取組の推進
- ・地域まちづくり推進協議会を通じた新たな地域住民の連携や取組の改善

- ・SDGsに取り組む市内事業者の増加
- ・江南市SDGsパートナーとしてのPR効果による市内企業の雇用促進

- ・公共交通の利用促進による交通渋滞の緩和
- ・市内企業の再投資促進による設備の省エネ化

- ・官民共創の推進
- ・各種団体によるSDGsイベントの開催などの増加
- ・SDGsの実現をめざす市民の増加

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施①

将来的な自走に向けた取組

～『ヒト・モノ・カネ・情報』の観点から将来的な自走ができる取組とするための工夫～

ヒト



- 地域交流センターでの人材育成やNPO法人の立ち上げにより、SDGsに取り組む人材・組織を確実に増やしている仕組みとなっている
- SDGsに関する教育にも積極的に取り組み、中長期的においてもまちをささえる人材を確保できる仕組みとなっている



地域交流センター



江南市SDGs登録制度



◀ 大学生などの若者を中心としたまちづくりワークショップ

市民活動団体による▶ SDGsイベントの実施



モノ



- 地域交流センターを中心に事業者や市民団体が活動できる場を提供することにより、自律的にSDGsに取り組む環境が確立できている



布袋駅東複合公共施設に面した駅前広場の活用

地域交流センター（オープンスペース）

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施②

カネ



- SDGs推進の拠点となる地域交流センターは、指定管理者制度による運営への移行を予定しており、また、企業版ふるさと納税をSDGs推進の資金源とするなど、補助金に頼らない仕組みができています



市内11金融機関との地方創生に係る包括連携に関する協定



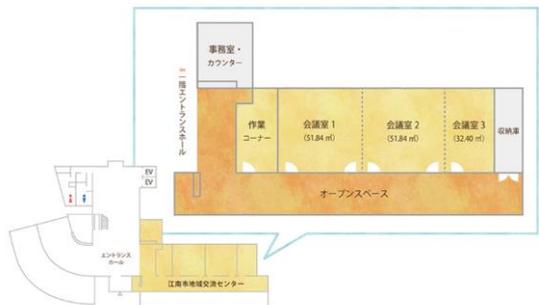
【市制70周年記念事業】

- 東海テレビと連携したオリジナルドラマ制作
- 実施予算を企業版ふるさと納税で確保
- 寄附企業のマッチングを名古屋銀行と連携

情報



- 地域交流センターを中心にSDGsに取り組む団体が横の連携をつくることができ、横の情報連携が起りやすい仕組みとなっている
- SDGs推進コーディネーターにて、SDGsに関する事例・ノウハウの蓄積を行い、情報が次に生かせる仕組みができています



地域交流センター（布袋駅東複合公共施設 1階）



地域交流センター（会議室）



◀ 団体設立支援や団体連携を促すための、まちづくりに関するフォーラムなどを定期的実施



SDGsで みんながつながり
ゆとりと生きがいをもって暮らせる
『生活都市』の実現を